

得ないのであるまいかと考へられる。

これを要するに以上の點よりして、甚だ漠然とはしてゐるが大體十二年の週期とその倍数なる三年四年の週期をこの僅少の資料に依つて認め得ると思ふのである。

尙、「さこね水押」と記載されてゐる部分より雨量に關するグラフを作れば第四圖の如くなつ

た。「さこね水押」とは先にも一言した如く、田中村の北西に當る野洲川の滑走斜面に野洲川大出水の際に溢水することを指すもので、野洲川上流地方(近江、北伊勢)一圓の降水の多量なりしことを物語るもので、この週期が四年並に一年となつてゐる。(完)

安藝の名勝二級峽及白糸瀧 (二)

吉野益見

四、二級吊橋下流の景

二級橋にて二級峽盡き兩岸開き田圃横はり豁然として氣開き神舒ぶ。橋の下流には巨岩多く起臥し點々島嶼の如く、清流は巨岩に激して滔々白沫を飛散し、更に又急湍奔瀨をなし轟々白龍の飛躍するに似た頗る壯觀を呈す、是れ河床

の一勝景なり、鮎其他川魚の潑刺たるを見る。こゝより千數百米間の河床には巨岩横はり、又大小の積地存す、後者は島嶼狀をなし、或は畑地をなし、或は土石の裡草木の繁茂せるものありて單調なる河床に一變化を與ふ。又左右兩岸に注ぐ溪流には小瀑多く懸り其數二十を超ゆ、左

岸には大津江、段原、草ヶ谷、野栗迫、岩菜ヶ谷、蕨ヶ段等十有五瀧あり。右岸には天ヶ谷、砥石川、白糸等六瀧あり、就中白糸瀧は其巨壁にて二級瀧に對比すべき價値あり。

五、白糸瀧

瀧路。此瀧は二級瀧を大瀧と稱するに對して小瀧とも稱す。黒瀧川右岸に注ぐ石内の溪流白糸川と水田とに沿ひ北上せば、石英斑岩の巨岩多く露出し其正長石は水蝕のため小穴を生じ奇觀を呈す、進むこと五百餘米、水田盡き忽ち鬱蒼たる密林となり、溪流はこゝより發す、椎、白檜、あらかし等の潤葉樹は高く廣く空を覆ひて翠綠滴り、其下の清流百米間の前半は略々一直線に傾斜し淙々潺々として岩盤流岩の間を縫ひ、後半は迂餘曲折變化に富み頗る幽邃を極む、其末に近く小池あり觀音像の埋没所なりと云ふ、林水美の裡涼氣自ら起り身は塵外に在るを覺ゆ。後半左岸の地に觀音堂あり、風致を加へ信仰の一中心をなす、其傍に二碑あり、一は

南無妙法蓮華經の題目を刻し、一は蕉巴塚として「ほろほろと山吹散るか瀧の音」と勒す。小瀧觀音略縁記によれば、昔此觀音堂の良笹筒谷に瀑頭山惠現寺ありしが、元龜天正の頃廢滅す、後正徳享保の頃庄官多賀兵右衛門觀世音を信ず、一夜觀音現はれ、吾此水底に在れば一字を設けて安置せよと夢む。百姓吉良兵衛亦同じく夢む。於是翌朝兩人水中に觀音像を得たるにより、兵右衛門此堂を建て之を安置し以て今日に至る。

瀧の概説。溪流の屈曲部に在る正面瀑にて、上下二段に分れ、上段瀑は約南北(北二〇度東)節理面に、下段瀑は約東西(北七〇度東)節理面に懸る。前者は後者と一一米を隔て、後方にあるために、瀧壺より仰視し得ず、高さは前者五米、後者三八米、合計四三米に達し、備後山野峽の瀧頭瀧(三九・四米)の高さに勝る。兩者は共に一條飛瀑の姉妹瀑なり。

特説。上段瀑。河水は略々東西節理を浸蝕し

第四圖 白糸瀧の上位にある上瀧



て河床を形成し流下し、約南北節理面に懸瀑をなす。其幅二米に過ぎざるも、高さ其二倍を超ゆれば、白水浩浩々々奔飛頗る雄壯を極む。瀑水は岩盤の左岸低所を流ること一一米にして

に躍入す、これ眞の飛瀑なり。瀑水の幅、最上部は〇・五米に過ぎざるも、漸次増加し、最下部は二米に達し頗る壯觀を極む。若し夫れ風加れば瀑水移行し、雲霧として四散し、日光を受け

下段瀑に入る、其瀧口U字をなす。左岸の末に近き斷崖に一青松屹立し、下段瀑の俯瞰に至便を與ふ。

下段瀑。これは斷層により生じたる約東西節理面の垂直の大岩壁に懸る。此岩面は鑿を以て削るが如く、其上部は僅少の突出に過ぎざれば、瀑水はU字口より岩壁面に觸れずして一齊に飛下し瀧壺

ば忽ち美虹を出現して色彩を加へ、更に錦上花を添ふるの觀あり。瀑水は瀧壺を猛撃し、飛躍咆哮山谷に響き、更に目耳を驚かす。尙岩壁面は約南北及水平層の節理を認め、羊齒類常綠樹の生育するありて、一段の景趣を添ふ。

瀧壺。略々圓形、長徑一三米、短徑一二米なるも、深さ一米なると其口邊に人工を加へて自然景を變じたるとは惜むべきなり。青藍の中、白水飛騰の裡、渾身瀑水を浴ぶるものありて更に亦一壯觀を加ふ。

觀望所。瀧壺の周邊地を最とし、茲に觀望亭及眺望臺の設備あり、座して下段瀑及瀧壺の全貌を鑑賞し得るも、冷霧衣袂を霑し久しく留まる能はず。次に前記の下段瀑頭に近き斷崖の一青松は險を戒めば下段瀑の俯瞰に適す。以上上下の兩所に於て始めて下段瀑の真相を觀望し得。

概括。此瀑は節理の垂直面に懸り今尙幼年期の状態を保持す。水量は普通にて旱天時も殆んの

ど減水せざるの特色あり。若し大雨至らば瀑水澎湃大偉觀を呈すといふ。此瀑及其下流の秀景は名勝區として保存の要あるを認む。

瀧上の溪流及深林美。白糸瀧より溪流を溯れば清流は滾々淙々として琴瑟の相和するが如く就中急湍小瀑は滔々として所々に懸り神龍の飛昇するに似たり。最奥に懸るものは高さ一〇米其巨壁をなし上瀧と名づく。奇岩は流に轉在して美觀を與ふ。此地域二百餘米間は青松綠樹よく繁茂し鬱蒼畫尙暗く所謂深林美に富む。

附 說

一、動植物

動物。此峽の清流には、魚類に鯉、鮎、鰻、鮎、鮎、鮎、ぎ、等の潑刺たるありて、釣遊の情を唆り。鳥類には五位鶯・岩雀、鳶、鶯、時鳥、川蟬、山雀、眼白等の林間に飛囀し溪流に和するあり傾聽の念自ら湧く。

植物。峽側下部の兩岩壁の節理間には翠松躑

躑躅松忍草等生育して之を飾り綠翠の掬すべきあり。其上部の樹林帯には青松繁茂し、躑躅楓を交へ、春花秋紅の候殊によく其の美觀を添ふ。林相に樹齡若きも生氣に満つ、假すに年月を以てし、保護を加ふるの要あり。

二、甌 穴

甌穴は花崗岩盤の急斜面即ち瀨瀧及瀧壺の中に生成し、弧狀曲峽の北部。東西直峽初部の瀨、堂々瀧、南北直峽中の岩淵周邊、長瀨、鏡瀨、二級瀧頭。二級瀧及其瀧壺等に多し。又流水路中及其側面に存在す。就いて見るに、節理中又は其交叉點に生ずるもの甚だ多し。又流水が花崗岩中の長石部を分解して生ずるあり。瀧水の穿つものあり（甌穴が瀧壺となるあり、又瀧壺の中に甌穴の存するものあり。尙大甌穴の内に小甌穴の存するものあり）。其形態は垂直的に皿型白型甕型箕型等の種々あり、又甌穴生成の順序を示すものあり。次に甌穴の水平的形態（口形）は亦甚だ多く、棗、藍甕、德利、靴、圓、階

圓、瓢、漏斗、帽子、蛤、風呂釜、達磨、瓜、長形等あり。其數一五〇の多きに達し、口徑一米に滿たざるもの相當あり、一米乃至二米を超ゆるものあり。渦淵は長徑一二米、短徑五米ありて、峽中最大我國稀有のものに屬す。砂礫は甌穴を埋めコンクリート状をなせるあり。又水と共に渦巻きつゝあるものあり。爲に其深及垂直的形態を測定し得ざるものあり。甌穴は縦を本體とす、然るに瀧の口の如き横の存在は天下の大奇觀なり。次に生成初期のものは幼年期に、完成のものとは壯年期に、流水作用等に破壊され纔に其形態を留むる刳形のものとは老年期に屬す。かく小區域に各種甌穴の多數現存するは研究上頗る重要な地位を占む。彼の廣島縣佐伯郡栗谷村蛇喰の甌穴よりも探究に至便なり。

三、瀧

二級峽（花崗岩）には始に近く堂々瀧、終に近く二級瀧懸り二大勝景をなし、白糸瀧（石英斑岩）は黒瀨川右岸の白糸川に懸り前二者に對應

す、三者何れも正面瀑をなし、夫々特色を有す。

第一位の二級瀧は上段峽と下段峽との間に懸るが、上段瀑は南北節理間及東西節理間の水浸により生成し所謂方狀節理間の水浸面に懸り、其男瀧は南北節理に沿ふ斷層面に懸る。下段瀑の女瀧は東西節理に沿ふ斷層面に懸る。即ち南北及東西節理に沿ふ斷層面及方狀節理間の水蝕面に懸り、成因及形態複雑變化に富み、大水には更に二懸瀑を加ふるの偉觀を呈し、其高四三米、廣島縣下の名勝瀑中の首位を占む。第二位の白糸瀧も亦上下二段瀑にて、上段瀧は略々南北節理の水蝕面に懸り、下段瀑は略々東西節理に沿ふ斷層面に懸る、成因は二級瀧と同じく水蝕面と斷層面とに懸る。形態は單純なるも、眞の飛瀑をなし壯觀を極む、其高さは四三米前者と相並びて廣島縣下に於ける雙壁をなす。第三位の堂々瀧も亦上下二段瀑にて、略々南北及東西の節理に沿ひ生成し三條に懸る、高さ九・五米、前者の四分の一に及ばざるも、白瀑堂々峽中の

奇觀たり。こは二級瀧と共に甌穴の見るべきもの存す。尙峽尾左側には人工的側面瀑十二級瀧懸り、高さ九五米に達し有終の美を呈するものあり。要之此前中の二瀑は勝景の白眉をなす正面瀑にて、安藝の三段峽備後の山野峽の三段瀧三つ瀧及瀧頭瀧に優に比肩し得。

四、二級峽の特色

全峽粗粒花崗岩にて組成され、峽首の標高一七〇・五米、峽尾の標高五三米、峽底には大岩盤の露出甚だ廣きこと其一なり。此峽は斷層線中に在りて略々東西及南北の岩石節理間の水蝕により東西及南北の方向を取れる部分甚だ多きこと其二なり。上下の二段をなし其間に二級瀧、峽首に近く堂々瀧懸り、兩者間に瀨淵あり。峽尾左側に人工的最高の側面瀑十二級瀧の懸ること其三なり。各種の甌穴、瀨瀧に穿たれ其研究資料を供すること其四なり。減水時はよく岩水を徒渉して鑑賞に至便なるも、増水時は瀨淵飛瀑の景觀悉く一變すること其五なり。二級瀧及下

段峽は此峽の眞髓をなすこと其六なり。峽側の樹林帯は漸次峽を下るに従ひ其美觀を加ふること其七なり。吳市に近く探勝に至便なること其八なり。更に之を要約せば、此峽の眞粹は瀧と巨岩と此等に存する夥多の甌穴とに在り。以上此峽の特色は藝陽に於ける名勝且天然紀念物たる所以なり。

五、開發的施設

イ、道路。減水時には峽底の岩水は徒歩に至便なれば殆んど歩道を要せざるが如きも、増水時及婦人には之を要する所あり。即ち此峽左岸の溝渠に沿ふ歩道にて修理を要する所あり、又之により分岐して水邊迄小徑を修理すべきもの又新に設くべきものあり。又二級瀧附近兩岸の歩道は鑑賞上最も重要な地位を占むれば危険なき程度に迄、修理新設の要あるを見る、コンクリー鐵柵を用ふべき所あり。次に道路の修理新設は決して勝景を損壞せざる範圍の小規模のものに止めざるべからず。

ロ、名札、案内記。名札を設けて各々勝景を觀察せしめ、又地圖附説明ある案内記の廉價なるものを入峽路に於て販賣し、これによりて一層正確に鑑賞せしむるの便を興ふるを要す。

ハ、樹林の保護及移植。一般に樹林は若くして生氣あり、採伐を嚴禁して千古斧鉞を入れざる原始林たらしめて眞の深林美を表現し一層幽邃清淨の一大仙郷たらしめざるべからず。尙青松に配するに楓山櫻躑躅藤等を要所に移植し、且此峽の首尾即ち堰堤及發電所附近に梅林を作りて四時の深林美に變化あらしめ、岩水美と相待ちて此峽の眞價を増大せんことは、目下の緊要事として着手するを要す。

六、藝文

二級瀧古くより其名聲四隣に轟き、藝藩公、頼春風、春水、山陽、坂井虎山、廣瀬旭莊、寺田革、高橋績、岡千仞等、文人雅客の探勝吟詠多し、茲に其二三を掲ぐ。

噴雪吐煙天欲昏
駭獸驚禽遁逃去

奔雷轟處動山根
解衣襁褓滌塵煩

觀廣村瀑布

寺田革

千仞飛濤噴雪懸
若將瀑布論文字

晴雷日夜響岩邊
坡老胸中萬斛泉

廣村觀瀑布

坂井楨

清溪百里連天來

峽東崑崙水濤洄

忽逢絕壑倒奔注

高雲中裂闢萬雷

人語對非聞不別

紛如回風吹亂雪

下射深潭千盤渦

翻倒水底蛟龍窟

使人目眩兼足酸

咫尺性命齎粉寒

鬼神視之亦喪膽

壯哉東南第一觀

所恨中流抵巨石

駿馬跌蹄曾踏踏

安得巨靈擊石去

飛流直下三千尺

觀廣村瀑布

高橋 緝

斷岸千餘尺

幽襟抑如揚

濟涉無橋梁

徑路盤且曲

改步就危道

登彼崔嵬岡

搔首立傍徨

戰兢元有訓

看瀑園記

岡 千 俣

野路山、嶽峙千賀茂海濱、爲巖中高山、村千山麓者凡十三、

廣村爲其一、黑瀬川發山背、溪澗南注十餘里、至廣村爲瀑布、

自崖壁而上飛流濺絕谷、崖壁頂上曰看瀑嶺、有一茅屋、倚柱下

看一條素練奔崖注壑、噴夏雪、吼春雷、忽而雲霧族絮、忽而

谷風散珠、瀛乎不可久視、以其觸岩角折爲二層、曰二級瀑、

嶺上倚丘埠、樛園亭、看瀑園是也、折級而登四望淵然、野路

山磅礴半天、蜿蜒南走至海盡、兩岸缺然露海天、煙帆出沒一

帶遙翠爲伊豫諸山、園粧泉石爲假山、一亭占崖角、曰看瀑亭、

亭上下看、瀑布現全身於絕壑千仞樹木蒼鬱之中、右顧瀑源奔

湍觸石、有一奇巖、頂建石塔、巖下水爲淵、藍碧湛然、曰有

老蛟而潛委流、爲崖壁林鬱所遮、至盡所始現川身、川中巨石

矛戟錯出、奔流噴雪、兩岸田厓、村落高卑、占位置最爲奇觀、

園藤田讓夫所構、讓夫曰此丘稱賞覽所、藩公每巡封、登高留

賞爲例、藩廢傷勝迹永泯、已買地開園、以供遊人涉覽、讓夫

今爲里正、開道路建校舍、專以起公益爲事、夫看瀑無關邑事、

七、參考圖書

大日本帝國陸地測量部二十萬分の一、廣島圖幅。

同 五萬分の一、海田市圖幅。

地質調査所、大日本帝國西部地質圖。

廣村、二級峽圖、三千分の一、千三分の一。

廣村、白糸瀧附近圖、六百分の一。
廣村、廣村二十五瀧略圖。
廣島縣、廣島縣史 第一篇、第三篇。
山崎直方 佐藤傳藏編、大日本地誌 卷六。
發瀧通志、第三、第五。
吉田東伍、大日本地名辭書中國四國篇。
廣村觀光協會、廣村景勝案内記。
同 小瀧觀音略緣記。
岡信玉三、二級瀧踏査報告(豫報)。
杉岡西隆、廣村景勝案内記。

世界列強の鑛産資源と鑛業政策 (十)

米國地質學者シー・ケー・レーヌ博士著

近 藤 堅 二 譯

第八章 鑛物の將來と

鑛業政策

世界列強の鑛産資源と鑛業政策

此峽の調査に關し、縣岡太課長吉田屬の厚意と廣村の山中、森岡、神谷、大石、野坂、木曾田、杉岡、多賀、小田本、増中、西原、石谷、堀向、畑村、大林、橋上等諸氏の實地指導解説及木曾田、杉岡、石谷三氏の特別なる援助とに對し、茲に篤く感謝の意を表す、此稿は全く以上の諸氏の賜なり。(完)

現 勢

既に前章に於いて引續いて述べたやうに鑛業に於ける顯著な傾向は次に掲ぐるものであるが